

変えよう! 杉並区政

杉並区議会議員 杉並わくわく会議代表

松尾 ゆり



阿佐谷

前副区長が河北病院顧問に

～杉一小移転に影響は?～ (10月3日決算特別委員会)

阿佐ヶ谷駅北口の敷地の交換(区画整理)が進められていますが、杉並第一小学校の移転予定先である河北病院の顧問に前副区長が就任していたことがわかり、決算特別委員会で確認しました。(以下、質疑応答)

前副区長が病院顧問に就任

【松尾】前副区長の吉田順之氏が河北病院の顧問に就任していることを聞いて驚いた。区は把握しているか。

【答弁】7月頃、病院の事務方から技術的な顧問に就任していると聞いた。

【松尾】いつごろ就任したか。また、区長は知っているか。

【答弁】今年度に入ってから。区長も私たちと同じ時期に知った。

【松尾】吉田氏は、区に関わる誰もが、その能力や識見に敬意を抱いており、非常に評価が高かった方。だからこそ副区長までおやりになったわけですが、逆にそういう方が民間にいらっしゃることで、どういう影響があるか心配している。

特に、河北病院が使っていた土地が今後学校用地になる予定があり、土壌や地盤に関する心配が絶えない。顧問ということで利益相反にあたるようなことがないか。

【答弁】区としては今般、利害関係者との接触のルール(「利害関係者との接解に関する指針」)を決めたので、区に対する働きかけなど、そういうところをしっかりと見極めて対応していく。

【松尾】ただちに違法ということではないが、後輩たる職員の皆さん、特にこの事業に携わる職員さんにとって、吉田さんはお

世話になった方。影響力は無視できないのではないかと思います心配している。

現練馬区長さんが都庁の職員から豊洲市場の土地取引相手である東京ガスの執行役員になったという事例もあった。李下に冠を正さずというか、吉田氏がこの地位にいるのはあまり良いことではないと思う。

病院敷地には多数の松杭

【松尾】次に、杉一小の地盤対策について質問する。(移転先の)河北病院敷地に多数の松杭が入っているという情報について、その後確認したか。

【答弁】具体的内容は把握していない。

【松尾】聞けば答えてもらえることではないのか。できるだけ早く調査してほしい。

【答弁】施行協定で除去されるべきものとなっているので、杭が残らない前提で考えていく。

【松尾】松杭ときいているので、摩擦杭*としてかなりの数が入っていると想像する。松杭の抜去費用はいくらか。

【答弁】一般的には10m程度の長さで一本約10万円程度といわれている。

【松尾】10万円/m²として6,000m²なので6～7億円かかる。病院はその負担を減らしたいと聞いているが、区の方は杭を残置する考えはあるか。

【答弁】杭を残す、残さない、それぞれメリット、デメリットがあるが、原則的には協定で抜くことになっていることを前提に進める。

*摩擦杭:軟弱地盤等で建物を支えるための杭。かつては松材が多く用いられた。



西武新宿線連続立体交差事業で 立ち退きか

(10月10日決算特別委員会)

西武新宿線の立体交差事業は井荻駅以西が高架、野方駅(中野区)以東が地下化が進められています。下井草駅の構造形式(高架か地下か)は未定ですが、工事に伴い、住宅の立ち退きが心配されています。

(以下、質疑応答)

【松尾】西武新宿線連立の野方-井荻間は「着工準備」を高架化で申請しているが、高架に決定か。野方-井荻間の立ち退き件数は。

【答弁】都が検討中。区としては答弁を控える。

【松尾】住民が情報公開で入手した都の資料では、高架の場合272世帯、地下(単線シールド方式)で230世帯。高架の場合、下井草の立ち退き件数は。

【答弁】区として把握している件数はない。

【松尾】区は調べてない、関心もないということか。

【答弁】繰り返しになるが、都が検討中であり把握していない。

【松尾】下井草まちづくりに関する「たたき台No.2」とはどういうものか。

【答弁】去年ワークショップで検討してきたもの。駅周辺の道路交通課題を整理し、課題解決のために整備目標を立てイメージ図におとした(図1)。

【松尾】立ち退きが前提になっている絵に見える。すでにこの案に絞り込まれて、これに向けて決定されていくということか。

【答弁】この図ありきでやっているものではない。

【松尾】この図で線路北側の紫・赤色で表示されている部分は、現在住宅が立ち並んでいるところ。この案はこれらの買収、立ち退きが前提ですね。

【答弁】イメージ図なので買収、立ち退き等の前提条件はない。

【松尾】しかし、買収しないとバス溜まりは作れない。新たに都市計画が定められる可能性について、地権者へ個別告知しているか。

【答弁】不確実な情報で不安や混乱が広がらないよう、個別に告知はしていない。

【松尾】立ち退き対象は30軒くらいあると思うが、地権者が都市計画を知らされず、反対の声も上げられずに決定するのは理不尽ではないか。

【答弁】都市計画手続きに進む前に、素案として区民に示し、意見を聞く機会をもうけるので、地権者の意見を聞かずに進めるものではない。

【松尾】地権者に寄り添っていただきたいと思う。

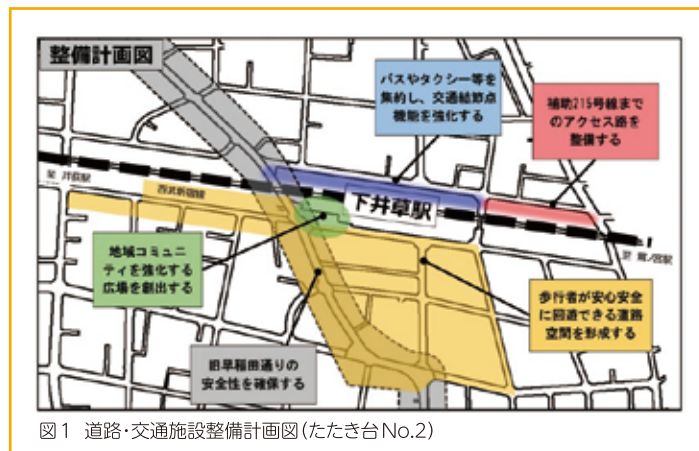


図1 道路・交通施設整備計画図(たたき台No.2)

治水工事と駅北口

(11月25日一般質問より)

東京都下水道局は水害対策として「第二桃園川幹線」(雨水を流すトンネル)の整備などを進めています。これから「阿佐ヶ谷主要枝線」(阿佐ヶ谷駅から松山通りを北上、阿佐ヶ谷北3丁目まで)の工事が行われるため、阿佐ヶ谷駅北口バス乗り場などが大幅に移動される可能性が出てきました。

工事期間中は北口広場のうち半分くらいが立坑ヤード(図2の緑色部分)として利用されるため、バス乗り場を大幅に移動、また、広場を南北に横切る横断歩道も使えなくなります。着工時期は未定ですが、工事期間は6年程度かかるということです。

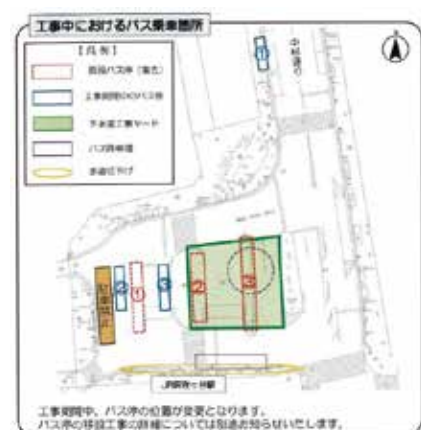


図2 阿佐ヶ谷駅北口バス停の移動案
(東京都下水道局、2023年)

※この案は変更の可能性がありますのでご注意ください。

成田東

児童館の存続を明記した 子どもの居場所基本方針

(10月8日決算特別委員会)



杉並区は「子どもの居場所づくり基本方針」(案)を発表し、児童館全廃の方針を転換することとしました。

これまでは、児童館をすべて廃止し「機能を学校内に移転」する方針のもと、41館中16館が廃止されました(図4)が、今後は廃止はせず、7館を新たに設置します。

どこに設置するかはまだ白紙。また、16小学校区すべてに復活するわけではなく、7館にとどまっていますが、前向きな変化の「あくまで第一歩」ととらえています。特に、地域格差*の解消は焦眉の課題です。

*地域格差

小学校区:16校区で児童館ゼロになったが他方、児童館2館+子ども子育てプラザの3館がある小学校区も。

行政の地域区分:阿佐谷地域=1館に対して、荻窪地域=6館と大きな格差がある。

新たな基本方針のおもなポイント

- 児童館:現存の25館は維持。
- 児童館新設:児童館が1つもない中学校区7(荻窪、東原、高円寺、東田、向陽、大宮、和泉)に各1館を新設。



図4 杉並区の児童館(×印は廃止された館)

他の施設の改築にあわせて複合施設とする。当面委託でなく直営とする。

●小学校内の放課後等居場所事業:全40校で実施へ。

●学童クラブ:基本的に小学校内で行う。待機児童解消のためクラブ入会は1~3年生限定とする。待機者の受け皿として放課後等居場所事業を活用。

●校庭開放:廃止された小学校で日・祝の校庭開放を復活する。

●中高生優先館:区内7地区に1館ずつつくる。

校庭開放について

【松尾】校庭開放が廃止された学校に日・祝だけでも復活はうれしい。明日からでも再開してほしい。しかし、指導員がいない。これまでの指導員は続けたくても廃止で辞めざるを得なかった。時間もたち、歳もとってしまい、今からもう一度やってくれるわけではない。

区の都合で一方的に廃止されたのだから、区の責任において会計年度職員あるいはシルバー財団にお願いするなど、確実に、また早急にやってほしい。

【答弁】校庭開放を実施していたときの利用状況や現在の校庭の利用状況等早急に検討して実施校を増やしていきたい。

【松尾】人材確保は。

【答弁】校庭開放指導員に限らず、学校支援本部で保護者と連携しているところもある。幅広く検討していきたい。

【松尾】地域に投げないでほしい。区の責任で早急に人材確保するようお願いする。

新年に願う東アジアの平和と安定

11月30日「自主・平和・民主のための広範な国民連合」の全国総会に参加しました。

石破首相の持論は日米地位協定見直しとアジア版NATOですが、この日の問題提起者の1人、鳩山由紀夫元総理は、NATOという集団的安全保障の仕組みではなく、東アジアを1つの不戦共同体「東アジア共同体」へ。それをめざす対米自立の政党を育てる必要がある、と発言。さらに「来年は戦後80年だが、さらに20年で戦後100年になる。100年たっても日本に米軍基地があるのだろうか。他国の軍隊が駐留し続けているのはきわめて異常なことだ」とも指摘されました。

BRICS等グローバルサウスの発展と欧米支配の後退という世界的な転換のもと、アジアの平和を守るためにも、日米同盟による軍備強化(アメリカの戦争肩代わり)をやめ自主自立の政治に転換しなければと強く願います。

